

## 6-CQ9-8)

分類	6 対象患者(高齢者・合併症を有する患者を含む)
番号	CQ9-8
文献ID	PMID: 24754632
文献タイトル	Comorbidity is an independent prognostic factor in patients with advanced-stage diffuse large B-cell lymphoma treated with R-CHOP: a population-based cohort study.
Evidence level	IVa
著者名	Wieringa A, Boslooper K, Hoogendoorn M, Joosten P, Beerden T, Storm H, Kibbelaar RE, Veldhuis GJ, van Kamp H, van Rees B, Kluin-Nelemans HC, Veeger NJ, van Roon EN.
雑誌名, 巻:出版年	Br J Haematol. 2014 May; 165(4): 489-96.
目的	R-CHOP療法で治療されたdiffuse B cell lymphomaの患者において、合併症 comorbidityが治療予成績と、治療に関連するtoxicityとに対して、どのような影響を与えるか明らかにする。
研究デザイン	前方視的観察的コホート研究
研究施設、組織	five medical centres in Friesland, a province in the Northern part of the Netherlands
研究期間	2005年1月から2012年1月まで
対象患者	1サイクル以上のR-CHOP療法を受けたadvanced-stage DLBCL (Ann Arbor stage II-IV)のおお8歳以上の患者 154名
介入	R-CHOP-21 or R-CHOP-14 chemotherapy in 6 or 8 cycles G-CSFは1次的あるいは2次的予防として投与。
主要評価項目	全生存OS, comorbidity (Charlson Comorbidity Index (CCI)2点未満と2点以上に分類)
結果	CCI2点未満と2点以上の群間では、CCI2点以上の群において有意にOSが低下しており、OSに対する多変量解析にて、IPI (International Prognostic Index)3点以上(HR2.33, 1.21-4.50, p=0.011)とCCI 2点以上(HR 3.09, 1.55-6.15, p=0.001)が独立予後不良因子として抽出された。Grade III/IV toxicity(半数以上がFN)に関する多変量解析では、同様にIPI (International Prognostic Index)3点以上(HR3.30, 1.59-6.84, p=0.001)とCCI 2点以上(HR 3.69, 1.23-11.08, p=0.020)が独立予後不良因子として抽出された。
結論	comorbidityはOSとgrade III/IV toxicityに関する独立予後因子であるとしている。
作成者	進 伸幸
コメント	本文献は、リスク因子のひとつとして、重篤な合併症を含める根拠となる文献である。